

安心して下さい！
—あなたの罪は赦される—

古 森 敬 子

奨励者紹介〔こもり・けいこ〕

左京キリスト教会牧師

イエスは舟に乗って湖を渡り、自分の町に帰って来られた。すると、人々が中風の人を床に寝かせたまま、イエスのところへ連れて来た。イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、元気を出しなさい。あなたの罪は赦される」と言われた。ところが、律法学者の中に、「この男は神を冒瀆している」と思う者がいた。イエスは、彼らの考えを見抜いて言われた。「なぜ、心の中で悪いことを考えているのか。『あなたの罪は赦される』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか。人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中風の人に、「起き上がって床を担ぎ、家に帰りなさい」と言われた。その人は起き上がり、家に帰って行った。群衆はこれを見て恐ろしくなり、人間にこれほどの権威をゆだねられた神を賛美した。

（マタイによる福音書 9章1—8節）

チャペル・アワーにお呼びいただいてありがとうございます。そして大学生の皆様や地域の方々にお話しできることを神様に感謝します。京田辺のチャペル・アワーにお招きいただいたのは今日で3回目になりますが、少し自己紹介をいたします。

50歳で離婚した後、老後の過ごし方を模索していた時、イギリスの聖書学校に行く機会が与えられました。そこでの様々な出会いの中で、これからの人生を神様のために用いる決心をしました。帰国後すぐに同志社大学の編入試験があったので、それを受け、次の年の4月から神学部3年に編入学することができました。そして院の2年間と合わせて4年間同志社で勉強した後、日本キリスト教団の教師になりました。それが2008年4月ですから、丸8年、教会で牧師をさせていただいています。現在は京都にある左京キリスト教会で牧師をしています。どうぞよろしくお願いします。

「中風の人」の意味

本日の聖書箇所は中風の人をイエスが癒した、というお話です。皆さんは「中風」という言葉をご存知でしょうか。国語辞書では、「脳卒中の発作の後遺症として主に半身不随になる状態」と書かれています。聖書の実語のギリシャ語で「中風」と訳された語は「パラリェティコス」という語です。英語の聖書では「パラリティク」と音訳された語が使われており、「パラリティク」とか「パラライズ」という英語の語が、このギリシャ語からできたということがわかります。この「パラリェティコス」という語は、体が麻痺した状態のことを表す語です。ですから、特に中風という脳卒中患者だけに限定しているのではなく、何らかの病気や事情で、体が思うように動かない状態、麻痺している状態の人を指します。

運ばれて連れてこられたその人に向かって、イエスは「子よ、元気を出しなさい。あなたの罪は赦される」と言いました。何か変な日本語だと思われませんか。ちょっと意味がつかみにくい文ではないかと思えます。「罪は赦される」って未来なのか、可能なのか、状態なのか、どういう意味なのだろうと考えてしまいます。

そういう時、私は原語のギリシャ語にどう書かれているのかを見ます。ここで「赦される」と訳されている動詞は直説法、現在形、受動態、3人称複数形です。それはつまりこの動詞の主語が3人称の複数形であることを示しているのです。それでこの文の中にあるこの動詞の主語を探します。すると原語ではこの動詞のすぐ後に「あなたの罪」という3人称複数形の名詞がありますので、これがこの動詞の主語であることが分かります。そして現在形は、今現在ずっとそういう状態であることを意味していますので、「あなたの罪は赦されている状態なんですよ」という感じになります。

そしてまた、「赦される」が受動態なので、誰か能動者がそれをしていることもわかるのですが、あえて能動者に言及しない時、それは神であると言われています。日本語でも、よく似た表現があります。受動態なのに、能動者を言わない時です。「昨日、雨に降られてしまった」などです。

罪を赦すという行為は神にしかできないことですから、罪を赦す能動者は神でしかありえません。しかし、イエスがここで「私があなたの罪を赦す」と宣言したのではなく、「あなたの罪は赦されているのですよ、あなたはひょっとしてそのことに気づいていないのかもしれませんが、あなたの罪はもう赦されているのです。だから元気を出しなさい、安心しなさい」、そうイエスは言っているのです。「あなたは本当は歩けるのだが、それに気付いていないだけです。もう一度自分の可能性を信じて、一歩踏み出してごらんください。そうすれば歩けるのですよ」、そう言っているようなのです。

麻痺していた私

私は、54歳で大学に入り直しましたので、すでに脳はかなり劣化していたと思います。正しい言葉は老化ですが、あえて間違った言葉を使います。「老化」はあまり嬉しくない言葉ですから……。私たちの若い時の脳科学の学説では、「脳は3歳までに成長し終え、後はもう成長することはない。そして12歳までに回路が出来上がり、その後はその回路が破壊されていくだけだ」と、習いました。私たちが自分で気付いた時には、もうすでに全部終わっていて、後から自分でいくら努力しても、もう無駄なのだ、と教えられてきました。

ノミのサーカス

ノミのサーカスというのがあるのをご存知でしょうか。最近日本ではノミを見なくなりましたが、昔は犬や猫にはノミがいるのが当たり前で、いつも痒そうに体をボリボリ掻いていました。犬の背中を毛をかき分けて捕まえようとすると、ごまくらいのおおきさの黒い物が素早い速さで逃げ回り、時には10センチ、20センチくらいは軽々と跳んで逃げていきます。素晴らしい跳躍力です。

そんな小さな、虫眼鏡で見ないと見えないような虫にサーカスをさせるのですが、そんなノミですから、跳んで逃げて行ってしまわないように、まず、ノミを訓練します。どのように訓練するのかと言うと、透明のガラス容器に入れるだけです。ノミは自分が跳べると信じてははじめ跳ぼうとするのですが、ガラスの蓋に

ぶつかって跳ぶことができません。それを数回経験すると、彼らはもう跳べないと思い、跳ぶことをしなくなるそうです。跳べなくなるのではなく、跳ばなくなるのです。するとガラス箱から出しても、もう二度と跳ばないので、それからサーカスの訓練をするのだそうです。

先日、中学生の女の子が誘拐されて2年後にやっと逃げ出して保護された、というニュースがありました。外から鍵をかけても中から開けられるし、犯人は大学の授業にも行っていたそうで、その間に逃げられたのではないかとニュースの解説者が言っていました、それはその状態を劇の観客として見ているから言えることなのです。彼が大学に行って数時間絶対に帰ってこないのか、または外出するふりをしてアパートのドアの外か、または通路の陰に隠れていて、逃げようとする自分を見張っているのか、それは中にいる人間にはわからないからです。逃げようとしてドアを開けた時に、外で見張っている犯人に、「いつも見張っているからな、逃げられると思うな」と、脅されることを数度経験するだけで、もう怖くて、ドアを開けることすらできなくなってしまうでしょう。ガラス箱に入れられたノミのように、ドアの外には常に怖い犯人が待ち構えていることがインプットされます。ノミにとっては自分の上に常に透明のガラスの蓋があって自分はもう跳べないのだと思い込まれるように、彼女にとってドアの外には怖い犯人が常にいるのです。

人間はノミではない

しかし、人間はノミではありません。心の奥底にある自分の可能性に気づく時、そしてもう一度チャレンジする勇気さえあれば、麻痺してしまって歩くことができないと思っていた自分でも歩き出すことができ、再び前のように跳び上がることができ、そして閉じ込められた世界から外に飛び出すことができるのです。そのことをイエスは「あなたの罪はすでにもう赦されている状態なのだよ」と表現したのではないのでしょうか。

皆様は星野富弘さんという方をご存知でしょうか。体育教師になって、生徒の前で宙返りをした時、失敗して首の骨を骨折してしまい、命はかろうじて助かりましたが、首から下が動かない体になってしまいました。もう二度と治りません。足はもちろん手も動かすことができない状態は、本当にこのイエスの物語に出てくる麻痺した人、そのものではないかと思います。人間的に考えれば、大好きな体操はもちろんのこと、歩くことも、自分でご飯を食べることも、トイレに行くこともできず、ただ横になっているだけで、人のお世話にならなければ何もできない。その絶望感はいかばかりであったかと思います。

しかし、彼は「起き上がって床を担ぎ、家に帰りなさい」というイエスの言葉を自分の言葉として受け取り、できない自分を見ないで、起きて、一歩、歩むことを始めました。首から上は動かすことができたので、口で絵筆を持って、字を書いたり、絵を描く練習を始めました。今では、彼が描く絵や文章が本や絵葉書やカレンダーなどになって、多くの人に勇気を与えています。

否定的思考から肯定的思考へ

星野さんと並べることはおこがましいのですが、私も、人生50年を越えてから大学に入り直して勉強するのは決して楽な作業ではありませんでした。外国語の単位取得のためにドイツ語の勉強をした時も泣きそうでしたし、専門が新約聖書なので、ギリシャ語を学ばなければなりません。日本語も結構難しい言語だと思いますが、ギリシャ語も結構大変でした。ギリシャ語は名詞、形容詞、冠詞などに格変化が単・複

5ずつあり、また男性形・女性形・中性形とそれぞれ変化します。動詞も単・複6種類が、現在、過去、未完了、完了、さらに受動態、加えて中動態という日本語にはない態まであって、それぞれが全て変化をし、変化の一覧表を見ただけでめまいがします。こちらもち恵熱を出しながら勉強しました。

脳は3歳まで、そして回路は12歳まで、あとは老化の一途、という昔の学説を信じていたら、する前からあきらめていたかもしれません。しかし、やっぱり学びたい、できなくても良いからやりたい、という思いでやってきました。しかし、最近の学説で、脳は何歳になっても成長する。いや、成長するというか、劣化の一途を辿るのではなく、回路は勉強すればするだけ何歳になっても増えていく、ということが証明されたそうです。そして筋肉でさえも、90歳になっても100歳になっても鍛えることができると今では言われています。昔の学説を信じて、もう無理だとあきらめていれば、何も前進しなかったのですが、「やればできる、幾つになっても大丈夫」と信じて頑張った結果、今の自分の成長があったように思います。

「子よ、元気を出しなさい。あなたの罪は赦される」というイエスの言葉はそのことを表しているのではないのでしょうか。

「病気で一時できなかったかもしれない、あなたには無理だからと誰かに言われたかもしれない、もう歳なんだからできるはずがないと言われ、また自分でもそう思っていたかもしれない。しかし、それはガラスの蓋なんですよ、あなたを決め付けている罪と呼ばれる否定的な思いなんですよ」。そうイエスは言います。

「あなたの上に蓋はありません。跳んでごらんください。跳べるんです。ドアを開けてごらんください。ドアは開いていてあなたは逃げられるんです。幾つになっても、どんなことでもあなたにはできるんです。だから安心しなさい。元気を出しなさい、一歩踏み出しなさい」とイエスは私たちを励ましてくれています。

「子よ、元気を出しなさい。あなたの罪は赦されています」。

2016年5月11日 京田辺水曜チャペル・アワー「奨励」記録